

【添付資料 1】

牧之原東照宮の幟(現状)

2018. 9 調査時



「榎本武揚落款(サイン)」部分

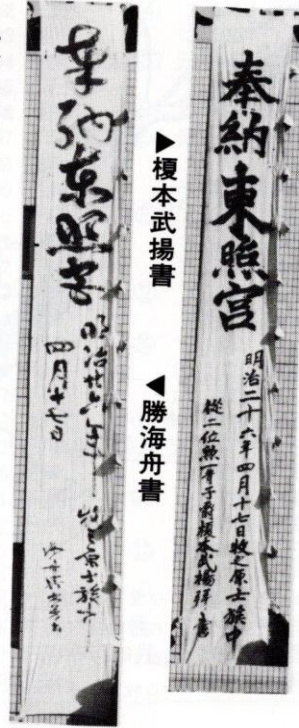


「

「勝海舟落款(サイン)」部分

島田市教育委員会『島田の文化財』1984年より

牧之原地区 市指定1点



牧之原東照宮の幟 (市指定文化財)

牧之原東照宮は牧之原開墾方として入植した旧幕臣の氏神として勧請された。

江戸城開城に際して、城内紅葉山にあった東照宮を上野寛永寺に遷座し、上野が戦場となるに及んで山岡鉄舟が小石川の酒井安房守邸に移し、さらに明治3年久能山に遷座したのを期に、明治10年9月27日、開墾士族の強い要望により、島田市谷口原(現在の老人ホーム権現荘地)に勧請したもので、当時は宏壮な境内をもつ神社であったという。

この幟はその勧請15周年に当る明治26年に、勝海舟、榎本武揚が奉納したもので、それぞれの自筆である。この幟は近年まで、毎年9月17日におこなわれていた例祭に掲揚していた。

幟の長さ10メートル、巾は1・15メートル。
昭和45年8月1日、市指定文化に指定された。